

第14期 ヨルダン国民議会下院選挙結果

北澤義之

はじめに

- I 下院の法的位置付け
- II 第14期下院選挙の特徴

はじめに

本研究資料は、ヨルダン国会選挙の動静、とりわけ2007年11月に開催の予定される第15期国民議会下院選挙と、過去の選挙を比較するための第一ステップとして、第14期国民議会の選挙結果の詳細を紹介することを目的とする。またさらに、本資料が当選議員の経歴・出自等を元にした政治エリート層の分析など、今後のヨルダンおよび東地中海諸国の政治社会学的研究の一助ともなれば幸いである。本稿では、まず第I節でヨルダン憲法上の下院の位置づけと選挙法上の選挙の特徴について整理し、第II節において第14期下院選挙の特徴と今後の中心的争点と注目点を指摘する。

I 下院の法的位置付け

ヨルダン憲法の第1条では、ヨルダン国民はアラブ民族の一部であり、統治は世襲の国王を戴く議会制に基づくものとされ、また同第24条では、「国民は全ての権力の源泉である」ことが

明記されている。国民は直接間接にその権力を行使できるが、選挙法に基づく直接秘密投票による下院議員(Majlis al-Nuwwab)選挙がその代表的なものである(第67条)。その一方で、「立法権は国民議会(国会)(Majlis al-Umma)と国王に与えられる」(第25条)ことが定められている。また「行政権は国王に与えられる。国王は現行憲法の規定に応じて閣僚を通してその権力を行使する」(第26条)ことが定められている。すなわち国王は首相や閣僚を指名することで行政権を行使するのである。また全ての判決は国王の名の下に成される(第27条)ので、司法権も与えられていることになる。

このように、広範な国王の権利がヨルダンの統治システムの特徴の一つとなっている。その権力の歴史的基盤は、アラブ独立運動の尖兵としての国王の役割や、トランスヨルダン政府の最初の創設者であることに存すると考えられる。国王は、即位する際、上院議長の主催する国民会議で憲法の規定を尊重し遵守することと国民に対する忠誠を誓うことになっている(第29条)。ただし最終的権限は国王が握っているものの、例えば国王の承認しなかった法案でも、一定数の国民議会の再承認によって成立することや、国王の指名した首相を承認しないことで、議会が独自性を主張することができることなど

から、立法府としての一定の機能は有している
と見なすことができる(注1)。

上院・下院からなる国民議会は、政府を監督
する。しかし、政府の信任・不信任の権限は下
院にのみ与えられ(第54条)、「首相と大臣は、
国家の公共政策に関し、下院に対して連帯責任
を負うものとする。更に全ての大臣は自らの省
の問題に関して責任を負う」(第51条)ことが定
められ、また下院には弾劾法案を出す(第56条)
権限も求められている。このように国民の意思
を代表する下院には、上院より強い権限が与え
られていることがわかる(注2)。

下院の議員定数は110議席(キリスト教徒9、
シャルカシー3、女性6)、選挙区は45、投票権は
18歳以上(選挙年の1月1日時点で)に認められ
る(選挙法第3条)。立候補者は立候補届出日の
時点で30歳以上の者(選挙法第8条)とされ、
軍・警察・消防・情報局などに勤務する者の投
票は認められない(選挙法第2条)。また立候補
の主な条件は、ヨルダン国籍を得て10年を経過
していること、外国籍を持っていないこと、投
票者リストに登録していること、破産していな
いこと、法的資格に制限を受けていないこと、
非政治的理由で1年以上投獄されていないこと、
外国政府から経済的利益を得ていないこと、
精神的に健全であること、国王の親戚でないこ
と、外国の政治組織に属していないことなどとな
っている(選挙法第8条)。また、政府職員や
それに準ずる者の立候補は禁じられており、立
候補の場合は辞任しなければならない(選挙法第
9条)。各候補者は登録時に500JDを財務省に支
払わなければならない。選挙運動では、他候補
者の批判、公的秩序を乱す言動が禁じられると
ともに、モスクや大学や道路や公共の建物で集

会や演説会を開くことを禁じられている(選挙
法第7条)。選挙監視は内務省が法律関係者を交
えて選挙管理委員会を作り担当するが、候補者
は投票や開票を監視することができる。有権者
は所属の選挙区内の投票所で投票するが、投票
方法は候補者の名前を直接記入する方式をとっ
ている。

II 第14期下院選挙の特徴

第14期ヨルダン国民議会の下院選挙は、2003
年6月17日に実施された。同選挙は予定された
選挙日(2001年11月)より概ね1年半遅れで実施
された。1989年11月、ヨルダンで下院議員選挙
が再開されて以来、選挙実施がこれほど長く延
期されたのは初めてであったが、1999年のフセ
イン国王死去(1953年即位)に伴う現アブドッラ
ー2世(注3)国王への国家元首の交代、2001年の
「9.11」以来の内外の混乱などに対応するための
体制固め、などが延期の背景として考えられ
る(注4)。選挙の結果、野党の中心となるイスラ
ーム行動戦線(Islamic Action Front：略称IAF)は、
第12期下院選挙の16議席より多い17議席を獲
得したが(13期選挙はボイコット)、議員定数が
30議席増えるなかでの1議席増加は実質的には
低下であり、IAFに左派・ナショナリストを合
わせた野党全体でも、第12期下院選挙の27議
席より少ない26議席程度にとどまった。これで、
1989年の「民主化プロセス」開始以来、選挙ご
とに野党が衰退する傾向がより明確になった。
今後の選挙では、この傾向がさらに続くかどう
かが最大の注目点となろう。

第14期の下院議員選挙で選挙前から注目され
ていたのは、前回選挙をボイコットしたIAFの

表1 選挙法による議席分配比較

行政区	1986年法		2001年法		増加議席数
	選挙区	議席数	選挙区	議席数	
アンマン	5	18	7	23	5
中部ベドウィン	1	2	1	3	1
ザルカ	1	6	4	10	4
パルカ	1	8	4	10	2
マダバ	1	3	2	4	1
マフラク	1	3	1	4	1
北部ベドウィン	1	2	1	3	1
イルビド	1	14	9	16	2
アジュルン	3	3	2	4	1
ジェラシ	1	2	1	4	2
カラク	1	9	6	10	1
タフィーラ	1	3	2	4	1
マアン	1	3	3	4	1
南部ベドウィン	1	2	1	3	1
アカバ	1	2	1	2	0
合計	21	80	45	104	24
女性配分議席	0	0	0	6	6
総計	21	80	45	110	30

(注) 1989年、93年、97年の選挙の議員定数は1986年選挙法(修正を含む)に基づき実施された。2001年暫定選挙法による議員定数増員に基づき2003年選挙が実施された。

(出所) ヨルダン内務省。

動向と選挙法改正の内容であった。IAFは、前回選挙のボイコットの主な理由となった投票方法が再び採用されたにもかかわらず、選挙に参加した。それには、前回選挙のボイコットをめぐり離党者を出す混乱に直面しただけでなく、立法の場を離れたことによる影響力低下に対して内部批判が噴出したことなどが背景として考えられる。また、選挙参加の意向を固めたIAFは、選挙前に国王側と協議し立候補者を30名に絞ることを約束したが、党で候補者を絞った結果、「強硬派」とされる議員が公認から外され、同候補者は他の数名とともに離党して立候補した(同議員はアンマン第2区で当選)。このような体制側との談合をめぐる内部対立問題は、今後とも、IAFが合法的に政治活動をする際の焦点となっていくものと思われる。

前述のとおり、いちばんの論争点である投票方法(単記制)^{注5)}への批判に関しては、改正選挙法での修正はみられなかった。この点に関しては、政府側からは単記制こそが先進的民主主義体制における一般的特徴であるというフセイン国王時代からの主張が繰り返された。ほかの改正点としては、地方と都市部の一票の重さの相違問題に対応するため都市部を中心に議席割当が拡大され、これに応じて下院定数が80議席から110議席に増加したことが挙げられる。また低投票率の原因の一つとされる投票方法の煩雑さに対応するため、投票手続きの簡素化が図られた。例えば、投票時の身元確認のために内務省発行のIDカードを利用することや、有権者が選挙区内のどの投票所でも投票することが認められた。また政治参加の拡大に関しては、投

表2 第14期下院選挙宗派別議席配分と立候補者

(単位:人)

選挙区	M	C	Ch	選挙区	M	C	Ch
アンマン1	4 (28)	0	0	カラク3	2 (11)	0	0
アンマン2	4 (31)	0	0	カラク4	1 (6)	0	0
アンマン3	4 (32)	1 (6)	0	カラク5	1 (12)	0	0
アンマン4	3 (20)	0	0	カラク6	1 (11)	0	0
アンマン5	2 (13)	0	1 (2)	ザルカ1	2 (24)	1 (5)	1 (4)
アンマン6	2 (16)	0	1 (3)	ザルカ2	3 (21)	0	0
アンマン7	1 (14)	0	0	ザルカ3	1 (14)	0	0
中部ベドウィン	3 (16)	0	0	ザルカ4	2 (21)	0	0
イルビド1	4 (35)	0	0	マフラク	4 (18)	0	0
イルビド2	2 (12)	1 (3)	0	北部ベドウィン	3 (20)	0	0
イルビド3	1 (13)	0	0	ジェラシ	4 (32)	0	0
イルビド4	2 (13)	0	0	アジュルン1	2 (19)	1 (16)	0
イルビド5	2 (13)	0	0	アジュルン2	1 (7)	0	0
イルビド6	1 (10)	0	0	マダバ1	2 (15)	1 (5)	0
イルビド7	1 (10)	0	0	マダバ2	1 (17)	0	0
イルビド8	1 (12)	0	0	タフィーラ1	3 (19)	0	0
イルビド9	1 (8)	0	0	タフィーラ2	1 (14)	0	0
バルカ1	5 (31)	2 (7)	0	マアン1	2 (8)	0	0
バルカ2	1 (7)	0	0	マアン2	1 (12)	0	0
バルカ3	1 (11)	0	0	マアン3	1 (8)	0	0
バルカ4	1 (7)	0	0	南部ベドウィン	3 (23)	0	0
カラク1	2 (9)	1 (3)	0	アカバ	2 (13)	0	0
カラク2	1 (3)	1 (2)	0	総計	92 (709)	9 (47)	3 (9)

(注) カッコ内は立候補者数。女性枠(6名)は、通常の選挙落選の女性候補者に、得票によって順位がつけられる。

M:ムスリム C:キリスト教徒 Ch:シャルカシー/シーシャーン。

(出所) ヨルダン内務省資料。

票権がこれまでの19歳から18歳に引き下げられたほか、女性の代表権拡大のために女性候補者枠を設定し、所属選挙区内での得票に応じて女性候補者に順位がつけられ全国で6名の女性下院議員が選出された(54名が立候補)。

しかし、票の重さに関する改正が完全には地域格差の問題を解消していないことや、全国規模の独立した選挙管理委員会の設立や国際的監視組織の参加は実現せず、選挙の実施は内務省のみの管理下に置かれているという問題がまだ残されている。(IDカード保持者に関する)投票率は58.8%と1997年の55.7%を上回ったが、1993年の68.2%には及ばなかった。このように、

改正によってもそれほど投票率の伸びがみられなかった背景には、近年の民主化後退に対する一般的批判や政治に対する不信が解消されていないことが考えられる。

なお、ヨルダンの下院における、政党代表率は、およそ30%にとどまっており、そのうち実質的に唯一野党として機能するのがIAF(17議席)であり、その次には保守派の国民立憲党(2議席)^{注6)}、その他が左派および中道の弱小政党が占めている。議員の8割は議会ブロックに属しているが、政党を核にしたある程度イデオロギー的背景をもつのはIAFのブロック(17議席)と保守派の国民行動戦線(22議席)、左派・

リベラルの民主連合ブロック(9議席)である。

政党代表率の低さは常に問題となる重要な指標であり、民主制の定着や政治文化をめぐる議論の対象となるが、他方で、一般に「体制派」として一括して扱われることの多い政党によらない独立派当選者の傾向の微細な変化も、今後、検討していく必要がある。それは、独立派当選者を取りまく(特に1990年代以降の)社会経済構

造の変化が、彼らを体制派にとどめていた環境自体を変化させている可能性があるからである。また同様に、これまでヨルダン政治に無関心として扱われてきたパレスチナ系ヨルダン人の動向についても、パレスチナ系議員の世代交代、政治的傾向(特にイスラーム政党とのかかわりあるいは体制化)などに注目して、評価していく必要がある。

表3 選挙区別当選者名簿

アンマン第1・第2・第3

候補者氏名	出生年/ 出生地	略 歴	所属政党	得票数
(1)ハリール・フセイン・ハリール・アティーエ Khalil Husayn Khalil 'Aṭīya	1958 / アンマン	アインシャムス大卒(エジプト) 経営コンサルタント 1997年当選 エンジニア協会会員		19,256
(1)アッザーム・ジャミール・ファリス・フネイディ 'Azzām Jamīl Fāris al-Hunaydī	1948 / リッド (パレスチナ)	カイロ大卒 単科大学副学長, イスラーム病院エンジニア局長, エンジニア協会会長(2000 - 2002年)	イスラーム 行動戦線	15,833
(1)アブドルハフィズ・ターレブ・ヒート 'Abd al-Hafīz Ṭālib al-Hit	1930 / ベイト・ナバラ (パレスチナ)	ベイルート・アラブ大卒 実業家		4,591
(1)ハリール・アジャージ・サーレム・ハバールネ Khalil 'Ajāj Sālim al-Habārina	1938 / アンマン	高卒 ヨルダン軍勤務(1958 - 76年)アンマン県議会議員(1995 - 2003年)		3,419
(2)アブドルモネム・ラアファト・アブー・ザント 'Abd al-Mun'im Ra'fat Abū Zant	1949 / エルサレム (パレスチナ)	ラホール大(パキスタン)修士, バグダード大卒, アズハル大卒, サウジ・クウェート・ヨルダン等で教員, 第11・12期 下院議員(1989 - 97年), イスラーム行動戦線を除名		13,033
(2)ムーサー・アリー・ムハンマド・ワヒシュ Mūsā 'Alī Muḥammad al-Wahsh	1952 / ベツレヘム (パレスチナ)	ベイルート・アラブ大卒, ジュバ大(スーダン)会計学博士	イスラーム 行動戦線	10,627
(2)タイシール・マフジュブ・ヤーシーン・フ イトヤーニー Taysīr Mahjūb Yāsīn al-Fityānī	1951 / ガザ (パレスチナ)	シンド大(パキスタン)博士, クルアーン大(スーダン)博士 ワクフ省(1974 - 76年), リヤドの複数の学校で宗教教育指導 (1977 - 2000年)	イスラーム 行動戦線	8,944
(2)ムハンマド・サルミー・ハサーン・クーズ Muḥammad Salmī Ḥasān al-Kūz	1951 / ジェリコ (パレスチナ)	高卒 会社経営(1986 - 2003年), 建設業協会会員(1996 - 2002年)	NAF	6,922
(3)ズバイル・シャリーフ・アサド・アブー・ラーゲブ Zuhayr Sharīf As'ad Abū al-Rāghib	1942 / アンマン	カイロ大卒 法律家, ヨルダン弁護士協会会員		7,891
(3)マムドゥーフ・サーレフ・アフマド・アッバーディ Mamdūh Ṣāliḥ Aḥmad al-'Abbādī	1943 / アンマン	英国で眼科学士取得 ヨルダン医療協会会長(1987 - 91年), 厚生相(1991年), アン マン市長(1993 - 98年)	DGB	7,792
(3)アブドゥラヒム・カーシム・アブドゥラヒム・マルハス 'Abd al-Raḥīm Qāsīm 'Abd al-Raḥīm Malḥas	1937 / アンマン	ベイルート・アメリカ大医学博士 マルハス病院外科部長(1975 - 93年), 厚生相(1993 - 94年)		6,009
(3)マルワーン・ハミド・マフムード・スルターン Marwān Ḥamīd Maḥmūd Sulṭān	1948 / アンマン	高卒 食料品会社社長(1966 - 2003年)		3,717
(3)C オーデ・プトルス・オーデ・クワース 'Awda Buṭrus 'Awdā Quwās	1950 / アンマン	アテネ大医学博士 外科医		4,489

アンマン第4・第5・第6・第7

候補者氏名	出生年 / 出生地	略 歴	所属政党	得票数
(4)アドナン・ファリス・ユースフ・ハッスーナ 'Adnān Fāris Yūsuf Ḥassūna	1945 / アンマン	ベイルート・アラブ大卒, パンジャブ大修士, ナイル大(スーダン)博士 ヨルダン・モロッコ・UAE・サウジアラビアでアラビア語教員・校長等を歴任(1965～2000年)	イスラーム行動戦線(創設メンバー)	11,484
(4)ビルジス・シャール・サーエル・ハディード Birjis Shāhir Ṣāyil al-Ḥadīd	1936 / ジュワイダ	エジプトの専門学校卒 ヨルダン空軍士官(1957～76年), アンマン県議会議員, 上院議員, 第13期下院議員	人民委員会運動党	7,659
(4)ナーエフ・イブラーヒム・サーレム・アブー・マハフーズ Nāyif Ibrāhīm Sālim Abū Maḥfūz	1961 / マダバ	ナイル大(スーダン)学士 船会社勤務, アカバ経済特区専務		6,428
(5)ムハンマド・アブドルカーディル・ユースフ・アブー・ファリス Muhammad 'Abd al-Qādir Yūsuf Abū Fāris	1940 / ファルージャ(パレスチナ)	ダマスクス大卒, アズハル大博士 ヨルダン大教授(1975～85年), 第11期下院議員(1989～93年)	イスラーム行動戦線	11,666
(5)ムハンマド・アブドラー・ハマド・アブー・フディブ Muḥammad 'Abd Allāh al-Ḥamad Abū Hudayb	1960 / アンマン	大学医学部卒(ルーマニア), 王立病院医師(1986～95年), アンマン県議, 第13期下院議員(1997～2001年)	DGB	5,427
(5)(Ch)ウスマーン・ハミード・アリー・アリー・シーシャーンニ 'Uthmān Ḥamid 'Alī Shishānī	1944 / アンマン	ワディシール短大卒, アンマン市建築局勤務(1964～67年), アンマン県議(1995～2003年), シーシャーン人指導者		1,486
(6)ニダール・ムハンマド・アミン・アッバーディ Niḍāl Muḥammad Amin al-'Abbādī	1963 / イルビド	ヨルダン大卒, ヨルダン大修士 教育省(1982～89年), 短大講師	イスラーム行動戦線	5,443
(6)ハシム・ハリール・ムハンマド・カイシー Hāshim Khalīl Muḥammad al-Qaysī	1940 / アンマン	カイロ大卒, 公安局麻薬課長(1984～88年), イルビド県警長官を経てヨルダン大教授		4,760
(6)(Ch)ルーヒー・ヒクマト・ラシード・シャールトウグ Rūḥī Ḥikmat Rashīd Shāhāltūgh	1943 / アンマン	ダマスクス大歯学部卒, カイロ大, 英国の大学に学ぶ, ヨルダン陸軍歯科医, 陸軍病院を経て開業(1999年～)		2,193
(7)アブド・ユースフ・アブドッサーワービーヤ 'Abd Yūsuf 'Abd al-Thawābiya	1955 / アンマン近郊	モースル大(イラク)卒, 農業省(1978～83年), 森林・農業関連の要職を歴任		2,388

イルビド第1・第2・第3

候補者氏名	出生年 / 出生地	略 歴	所属政党	得票数
(1)アリー・フセイン・アブドルワリー・アトゥーム 'Alī Ḥusayn 'Abd al-Wālī al-'Atūm	1942 / ジェラシ	ダマスクス大卒, カイロ大博士, イルビド各地でアラビア語教師, 国内・リビア・UAEの大学でアラビア語講師, ヤルムーク大講師(1991～2002年)	イスラーム行動戦線	8,461
(1)ムハンマド・ハサン・ムハンマド・ブズール Muḥammad Ḥasan Muḥammad al-Buzūr	1950 / ジェニン(パレスチナ)	バグダード大卒, 薬局経営(1983～2003年), ほかにも会社役員, ヨルダン薬剤師協会会員	イスラーム行動戦線	6,509
(1)ユニス・アフマド・フメイダーン・ジャムラ Yūnis Aḥmad Ḥumaydān al-Jamra	1952 / ジェリコ(パレスチナ)	ヨルダン教員養成所終了, ヤルムーク大卒(1973年), UNRWA教員(1973～93年), イルビド県議(1995～98年), 政治評論を多数新聞雑誌に寄稿	NAF	6,459
(1)ムハンマド・ムサー・アブドラー・バニー・ハニー Muḥammad Mūsā 'Abd Allāh Banī Ḥanī	1940 / イルビド	アレクサンドリア大卒(エジプト), ミダラス大修士, 空軍士官(1979～82年), 空軍研究所を経て, セメント会社役員, 第13期下院議員(1997～2001年), ヨルダン・エンジニア協会会員		5,741
(2)アブドッラウフ・サーレム・ナハール・ラワーブデ 'Abd al-Ra'ūf Sālim Nahār al-Rawābuda	1939 / アンマン	ベイルート・アメリカ大卒, 運輸相(1976～77年), 運輸厚生相(1977～78年), 厚生相(1978～79年), 第11・12・13期下院議員(1987～2001年), 公共事業・住宅相(1989～91年), 副首相兼教育相(1995～96年), 首相(1999～2000年), 上院議員(2001～2003年)		5,715
(2)サーミー・アリー・ムハンマド・ハサーウネ Sāmī 'Alī Muḥammad al-Khasāwina	1948 / イルビド近郊	ダマスクス・イスラーム専門学校卒, 大西洋大(チュニジア)経営学士(1999年), エイドゥーン市長(1986～97年), イルビド慈善協会連合会長(1984～97年), 第13期下院議員(1997～2003年)	NAF	2,890

第14期ヨルダン国民議会下院選挙結果

(2)○ ラジー・ヌールッサード・ハッダード Rajī Nūr al-Sa'd Hādād	1943 / アンマン	ヨルダン大卒, ヨルダン大修士, 米国で経営学博士号取得(1996年), ムータ大学軍事技術学部長(1989~91年), 軍警察長官(1989~91年), 駐米大使館武官(1991~94年), ヨルダン軍最高顧問(1994~95年), 軍事計画組織副参謀長(1995~96年), 第13期下院議員(1997~2001年)	NAF	3,745
(3)ムスタファー・サーレフ・ムスタファー・アマウィ Muṣṭafā Ṣāliḥ Muṣṭafā al-'Amawī	1954 / イルビド近郊	アラブ研究センター(カイロ)修士, 同Ph.D.(2004年)取得, 軍情報部勤務(1970~87年), 保険会社顧問(1987~95年), 法律顧問(1997~2003年)		2,016

イルビド第4・第5・第6・第7・第8・第9

候補者氏名	出生年/ 出生地	略 歴	所属政党	得票数
(4)フワーズ・マフムード・ミフレフ・ソアビー Fawwāz Maḥmūd Miḥḥraf al-Zu'bi	1950 / ラムサ	高卒(タウジービ資格), 貿易業, ラムサ市長(1989~92年), ラムサ市議(1992~93年), 第12期下院議員(1993~97年), 第13期下院議員(1997~2003年)	NAF	6,787
(4)アワド・ユーセフ・ハマド・ジヤバート 'Awad Yūsuf al-Hamad al-Dhiyābat	1958 / ラムサ	ヤーシュ大医学部卒(ルーマニア), ヨルダン大修士, 厚生省医師(1988~89年), 王立医療サービス病院を経てヨルダン大学病院(1989~94年), 厚生省専門医(1994~2003年), ヨルダン医療協会会員	DGB	5,874
(5)スレイマーン・ファイヤード・スレイマーン・オベイダート Sulaymān Fayād Sulaymān 'Ubaydāt	1960 / イルビド近郊	アレppo大卒(シリア), 公務員を経て, イルビドの電気会社勤務		4,473
(5)マーゼン・ムハンマド・ムサー・シャラーヤ・マルカーウィー Māzin Muḥammad Mūsā al-Sharāya'a Malkāwī	1959 / イルビド近郊	バグダード大卒, 北ゴール地域社会開発局長(1979~2000年), ジェラシ県社会開発局長(2000~2002年), パニクナーナ地区社会開発局長(2002~2003年), 北マザール地方社会開発局長(2003年)		3,895
(6)ナビル・ムハンマド・サイード・サリーム Nabīl Muḥammad Sa'īd Salīm	1958 / イルビド近郊	ヤーシュ大医学部卒(ルーマニア), 厚生省専門医(1990~2003年), ヨルダン医療協会会員	DGB	9,337
(7)ミジューム・ハマド・フセイン・スクール Mijhīm Hamad Husayn al-Ṣuqūr	1960 / 北ヨルダン溪谷	アンマン・アルアクサー建築専門学校卒, デイル・アラ農民組合指導部勤務, アルカリーマ市長, 第13期下院議員(1997~2000年)		9,756
(8)ムスタファー・サーレフ・ムハンマド・ジュダーヤ Muṣṭafā Ṣāliḥ Muḥammad al-Judāya	1965 / イルビド近郊	高卒(タウジービ資格), エネルギーおよび都市管理でオーストリアにて特許取得, イルビドで貿易会社経営(1982~84年), ヨルダン軍勤務(1984~88年), オーストリアで建設会社経営(1988~90年および2000年)		1,519
(9)マフムード・ムフセン・ファレフ・ムヘイダート Maḥmūd Muḥsin Fāliḥ Muḥaydāt	1948 / イルビド近郊	ジェスイット大文学評論Ph.D.(ベイルート), バンドゥス大(アテネ)政治経営Ph.D., イマーム・ムハンマド大(サウジアラビア)講師, ジェラシ大学生部長, 科学技術大顧問, 駐ギリシャ大使館文化顧問(1990~95年)		1,967

ザルカ第1・第2・第3・第4

候補者氏名	出生年/ 出生地	略 歴	所属政党	得票数
(1)イブラーヒーム・スレイマーン・サルマーン・マシュヒー Ibrāhīm Sulaymān Salmān al-Mashūki	1949 / ラファハ (パレスチナ)	エジプトでイスラーム学士, ダール・アルマナール出版社社長(1971~2003年), マシュヒー農業社社長(1975~2003年)	イスラーム 行動戦線	8,095
(1)サラメ・アターッラー・ムネイゼル・グウェイリ Salāma 'Aṭā Allah Munayzil al-Gḥwayri	1941 / ザルカ	ザルカ短大卒, ヨルダン軍将校(1959~63年), ザルカ市長(1974~78年), 第11期下院議員(1989~93年)		7,184
(1)(Ch)ムハンマド・タハ・ヤサア・アルスラーン Muḥammad Ṭāhā Yasa'a Arslān	1958 / ザルカ近郊	英国で機械工学士, 農機具会社社長(1988~95年), 死海の塩の合併事業(1995~96年), ザルカ工業会議所会長(1999~2003年)		1,958
(1)(C)バスサーム・サラメ・ムサー・ハッダーディーン Bassām Salāma Mūsā Ḥaddādīn	1949 / ザルカ近郊	ザルカの高校卒業後, ベルージャ大卒(イタリア), 学生運動を研究, ヨルダン人民民主党初代書記長, ヨルダン民主連合党創設に関与, 第11期(1989~93年), 第12期(1993~97年), 第13期(1997~2003年)下院議員	ヨルダン左 派民主党 DGB	3,055

(2)アリー・サーレフ・アフマド・アブー・スッカ 'Alī Ṣāliḥ Aḥmad Abū al-Sukkar	1961 / ザルカ	バグダード大卒(行政学), スーダンで法学士, エンジニア協会会長(1995~2003年), 建設会社経営(1988~95年), 元同胞団シュラ会議メンバー	イスラーム 行動戦線	5,751
(2)ムサー・ラシード・シャルキー・ハライレ Mūsā Rashīd Sharqī al-Khalāyila	1946 / ザルカ	ロシアの単科大学卒, ヨルダン空軍将校(1962~74年), 労働金庫勤務(1988~89年), 25年間炭鉱労働組合活動, ウンム・ルムナおよびラジム・アルシューク市長		3,284
(2)ムサー・バラカート・サウド・ザワーフラ Mūsā Barakāt Sa'ūd al-Zawāhira	1965 / ザルカ	ベトラ短大卒, 元総合情報局員, 自動車販売会社・建設会社経営		1,906
(3)ナウワフ・ムクベル・サルマーン・ズユード Nawwāf Muqbil Salmān al-Zuyūd	1959 / ザルカ近郊	高卒(タウジーヒ資格), 実業家		2,594
(4)ジャアファル・ユセフ・アフマド・ホラーニー Ja'far Yūsuf Aḥmad al-Ḥawrānī	1956 / アカバ	薬学士, 12年間サウジアラビアの軍病院勤務, その後13年間ルサイファ・モスクの導師, 教師を務め, 現在は医療機器販売		9,095
(4)マルズーク・ハマド・アワード・ハバールネ Marzūq Ḥamad 'Awād al-Ḥabārina	1958 / アンマン	ファイサル軍事大卒, 駐米ヨルダン大使館勤務(1990~92年), ザイトゥーナ大経理副部長(1993~96年), ルセイファ市議(1995~99年), ルセイファ諮問委員(1997~2003年)		5,499

バルカ第1・第2・第3・第4

候補者氏名	出生年/ 出生地	略 歴	所属政党	得票数
(1)マフムード・アワード・イスマーイール・ハラブシェ Maḥmūd 'Awād Ismā'il al-Kharābisha	1950 / サルト	アレクサンドリア大(法)卒(エジプト), ヨルダン大(経営)卒, エジプトで法学修士(1994年), 総合情報局勤務(1974~91年), 製紙会社経営(1991~93年), 1994年から法律家, 第13期下院議員(1997~2001年)		4,443
(1)アフマド・ムサー・アフマド・ファワーイール Aḥmad Mūsā Aḥmad al-Fawā'ir	1946 / サルト	王立軍事短大卒, ムータ大卒, ヨルダン軍(少将で退役)(1967~91年)	NAF	3,561
(1)ムスタファー・スレイマーン・ファラーハ・シュネイカート Muṣṭafā Sulaymān Falāḥ Shunaykāt	1950 / サルト近郊	バスラ大医学部卒(イラク), 1975年以来開業, 農業相, 医師協会会長(1982~86年), ヨルダン医療協会員(1987~89年), 第12期下院議員(1993~97年)	ヨルダン 左派民主党 DGB	3,281
(1)ハシム・アフマド・ミトレク・ダッバース Ḥāshim Aḥmad Miṭliq al-Dabbās	1931 / サルト	カイロ大卒, 英国で政治経済修士, 米ミズーリ大政治・経済Ph.D., 統計局長(1965~70年), 国民経済省次官(1970~80年), 会計検査局長(1980~91年), 第12期下院議員(1993~97年), 通信・郵便相(1994年), エネルギー相(1996~97年)	NAF	3,097
(1)ガーリブ・サラーム・サーレフ・ゾアビー Ghālib Salāma Ṣāliḥ al-Zu'bi	1943 / サルト	ダマスクス大卒, エジプトで法学修士取得(1980年), 公共安全局勤務(1969~96年), 首都警察部隊長, 麻薬取締り局長, 1996年から法律家, 第13期下院議員(1997~2003年), ヨルダン弁護士協会会員	DGB	3,097
(1)C ライド・カマル・ムサー・カーキシュ Rā'id Kamāl Mūsā Qāqish	1962 / アンマン	米の大学卒, グラスゴー大コンピュータ建築工学Ph.D.(英国), 応用科学技術大学講師(1993~95年), グラスゴー大講師(1995~97年), ベトラ大助教授(2001~2003年), ヨルダン・エンジニア協会会員		1,870
(1)C ファフリー・イस्कダル・ハンナー・ダーウード Fakhri Iskandar Ḥannā al-Dā'ūd	1950 / バルカ近郊	王立警察専門学校卒, アレクサンドリア大法学士(エジプト), 警察官(1971~2003年)	NAF	1,804
(2)ムハンマド・ヌーフアーン・サウド・オドワーン Muḥammad Nūfān al-Sa'ūd al-'Adwān	1955 / マダバ	ソ連の大学医学部卒, ヨルダン医療局より専門医認定(2002年), バシール病院医師(1983~90年), 中ゴール地区保健局長(1990~93年), バルカ県保健局長(1993~2003年), ヨルダン医療協会会員	NAF	3,957
(3)アリー・スレイマーン・ムハンマド・シャッティ 'Alī Sulaymān Muḥammad al-Shaṭṭī	1960 / イルビド	ヤルムーク大卒, ヨルダン大修士, デイル・アラ財務局局長, 第12期下院議員(1993~97年)	NAF	3,980
(4)ムハンマド・ハリール・ムハンマド・アケル Muḥammad Khalīl Muḥammad 'Aqil	? / ジェリコ近郊 (パレスチナ)	短大(イスラーム法)卒, アール・アルバイト大修士, イスラーム病院事務(1986~94年), 教育省付教員および校長(1995~2003年), 元同胞団員	イスラーム 行動戦線	10,224

第14期ヨルダン国民議会下院選挙結果

カラク第1・第2・第3・第4・第5・第6

候補者氏名	出生年 / 出生地	略 歴	所属政党	得票数
(1) アブドルジャリール・マフムード・アブドゥンナビー・マアイト 'Abd al-Jalīl Maḥmūd 'Abd al-Nabī al-Ma'āyita	1945 / カラク	ムータ大卒, 同修士(1987年), ヨルダン軍装甲旅団長(1987~89年), 軍総司令部作戦本部長(1992~94年), 駐英大使館付武官(1995~97年), 王立軍事大学部長(1997~99年)		5,013
(1) ジャマール・ハムード・アーベド・ドムール Jamāl Ḥamūd 'Abid al-Ḍumūr	1959 / カラク	ヨルダン大卒, ナイル大法学修士(スーダン), アフリカ国際大国際法・政治学Ph.D.(2003年), 軍事法廷判事(1982~90年), 法律事務所経営(1990~2003年), ヨルダン弁護士協会会員		4,618
(1)C アブドラー・ガーネム・スレイマン・ズレイカート 'Abd Allāh Ghānim Sulaymān Zuraykāṭ	1946 / カラク	王立軍事短大卒, 特別防衛部隊(1972年), 軍を引退(1979年), ヨルダン・ボタッシュ会社顧問(1981年), 第11期下院議員(1989~93年), 第13期下院議員(1997~2001年)	NAF	2,030
(2) アブドルハーディー・アターツラー・ジャアファル・マジャーリー 'Abd al-Ḥādī 'Aṭā Allāh Ja'far al-Majāli	1934 / カラク	バグダード大卒(1957年), 英国と米国で軍事コース受講, ヨルダン軍除隊(参謀長)(1979年), 駐米大使(1981年), 公共安全局長(1985~89年), アル・アフド党事務局長(1992年), 第12・13期下院議員(1993~2001年), 住宅・公共事業相(1996年), 元ヨルダン国民立憲党事務局長	国民立憲党 NAF	5,050
(2)C ラーエド・イブラーヒム・ハラフ・ヒジャーズ Rā'id Ibrāhīm Khalaf al-Ḥijāzin	1952 / アジュルン	ヨルダン大医学部卒, ヨルダン医療委員会より専門医(産科・婦人科)認定(1986年), 国立カラク病院産婦人科部長, ヨルダン大講師, 国際機関専門医, ヨルダン医療協会会員	DGB	1,639
(3) ハーテム・アフマド・ムサー・サライレ Ḥātim Aḥmad Mūsā al-Ṣarāyira	1958 / カラク	ヨルダン大卒, 米インディアナ大修士, 米インディアナ大国際関係Ph.D.(1989年), ムータ大助教授(1989~96年), ムータ大学長顧問(1997~98年), ムータ大歴史学部長(1997~2000年)		4,024
(3) アーテフ・ユセフ・サーレフ・タラーウネ 'Aṭif Yūsuf Ṣāliḥ al-Ṭarāwina	1954 / カラク近郊	アテネ国立大卒(ギリシア), サウジアラビアPETROLA国際会社エンジニア(1981~83年), 地方エンジニア局長(1983~95年), 会社役員		3,429
(4) ジュマア・アーベド・サラハ・シャアール Jum'a 'Abid Ṣalāḥ al-Sha'ār	1955 / カラク近郊	高卒, ヨルダン軍将校, ゴール・エルサフィ市長(1995~99年), ヨルダン渓谷地区退役軍人協会会長	NAF	3,188
(5) ヒヤー・イスリム・サリム・カララ Hiyā Islim Salim al-Qarāla	1966 / カラク近郊	アレクサンドリア大卒(エジプト), ヨルダン弁護士資格(1994年), 7年間教員, 企業法律コンサルタント(1998~99年), 企業専属弁護士(1999~2003年), ヨルダン弁護士協会会員	NAF	1,279
(6) ムハンマド・アフマド・ファリス・ハマヤイデ Muḥammad Aḥmad Fāris al-Ḥamayida	1950 / カラク近郊	ウンム・アルクラ大卒(サウジアラビア), ムータ大修士(2002年), 教育省付教員・校長(1972~85年), ムータ大学長室長, ムータ大副学部長(1997~2003年)		820

マアン第1・第2・第3

候補者氏名	出生年 / 出生地	略 歴	所属政党	得票数
(1) ハーリド・ハーフェズ・アラヤーヌ・バザーヤア Khālīd Ḥāfiz 'Alāyān al-Bazāya'a	1948 / マアン	ヨルダン軍士官, オマーンで建設会社経営, マアン市長補佐(1980~84年), その後何度か市長代理, トラック運送業協会会長		2,631
(1) アフマド・ハーメド・フセイン・クレイシャーン Aḥmad Ḥāmid Ḥusayn Krayshān	1951 / マアン	専門学校卒, 教育省付教員(1970~78年), UAE防衛省教員および視学官(1978~91年), ヨルダン地方問題行政省行政金融監督官(1994~2003年)		2,460
(2) アブドラー・フセイン・ミトレク・ハバーフバ 'Abd Allāh Ḥusayn Mitliq al-Ḥabāhibā	1945 / ショーバク	アインシャムス大卒(エジプト), 公共安全局に30年勤務, その間イルビド, アンマン, バルカで警察署長を歴任, 1996年引退	NAF	1,194
(3) アリー・サーレム・アリー・サイダート 'Alī Ṣālim 'Alī al-Sa'idāt	1960 / ワディ・ムーサ	ヤーシユ大修士(ルーマニア), マアン教育局建築部門, マアン公共事業局道路補修局長などを経て, 大エイル行政区長		2,033

マフラク

候補者氏名	出生年 / 出生地	略 歴	所属政党	得票数
アブドゥルカリーム・ファイサル・デイファッラー・ドグミー 'Abd al-Karīm Fayṣal Dayf Allāh al-Dughmī	1955 / マフラク	ベイルート・アラブ大卒, 弁護士, 第11・12・13期下院議員(1989～2003年), 都市地方問題・環境相(1989～91年), 労働相(1991年), 首相府担当国務相(1991年), 法務相(1996～97年)		6,224
ファーズ・アブドゥラー・ムネイゼル・シュデイファート Fāyīz 'Abd Allāh Munayzil al-Shudayfāt	1946 / マフラク近郊	バグダード大卒, 教育省付教員(1973～75年), サウジアラビアの民間企業経済顧問(1976～80年), サウジアラビアの貿易会社重役(1980～2000年)		4,764
ガーネム・アーメル・ラービエ・アブ・ラービエ Ghānim 'Amīr Abū Rābi' Abū Rābi'	1963 / マフラク	アレクサンドリア大卒(エジプト), 弁護士(企業や地方自治体の顧問も務める)	NAF	4,284
アブドゥルマジード・サリーム・ハマド・ハワールデ 'Abd al-Majīd Salīm Ḥamad al-Khawāliḍa	1955 / マフラク近郊	教員資格, 教育省付教員・校長(1976～99年), 1980年以來モスクの導師, マフラクの男子イスラーム学校校長, 元ムスリム同胞団員	イスラーム行動戦線(シュラ会議メンバー)	4,078

タフィーラ第1・第2

候補者氏名	出生年 / 出生地	略 歴	所属政党	得票数
(1) イブラーヒーム・スレイマーン・アフマド・アティーウィー Ibrāhīm Sulaymān Aḥmad al-'Aṭīwī	1968 / タフィーラ	ウクライナ大卒, 元駐ヨルダン・アルメニア名誉領事, 商社・旅行社取締役, 『アル・イッティジャーフ』誌社主, タフィーラ県諮問評議会議員		3,500
(1) アブドゥラー・アリー・オーデ・アカイレ 'Abd Allāh 'Alī 'Awḍa al-'Akāyila	1945 / タフィーラ近郊	ヨルダン大卒, 南カリフォルニア大修士・Ph.D., ヨルダン大講師, 教育相(1991年), 国民憲章委員会メンバー, 第10期下院議員(1984年), 第11・12・13期下院議員(1989～2001年), 元ムスリム同胞団員	イスラーム行動戦線	3,412
(1) フセイン・アティーエ・ムサー・カイシー Husayn 'Aṭīya Mūsā al-Qaysī	1966 / タフィーラ	ヨルダン大卒, アインシャムス大修士(エジプト), 弁護士(企業・自治体の顧問も務める)	NAF	2,719
(2) アフマド・アターッラー・ダバアン・ナアーナア Aḥmad 'Aṭā Allāh Ḍaba'an al-Na'āna'a	1939 / タフィーラ郊外	カラチ大卒(パキスタン), ヨルダン軍勤務, クウェート外務省職員, ロイヤルヨルダン航空総支配人	国民立憲党 NAF	997

マダバ第1・第2

候補者氏名	出生年 / 出生地	略 歴	所属政党	得票数
(1) スレイマーン・アワード・スレイマーン・アブ・ガイス Sulaymān 'Awād Sulaymān Abū Ghayth	1949 / ヘブロン近郊(パレスチナ)	ヨルダン大イスラーム法学士(1992年), 30年間教育省付教員・校長を務める, 1970年以來マダバのモスクで導師・教師も務める	NAF	5,040
(1) ムハンマド・スレイマーン・ミフラフ・シャワビカ Muḥammad Sulaymān Miflah al-Shawābika	1955 / マダバ近郊	米で経営学士, 経営学修士, 教育省勤務, その後民間企業		4,152
(1) イマード・サリービヤ・コスタンディ・マアヤア 'Imād Salībiyā Qustandī Ma'āya'a	1946 / マダバ	ヤルムーク大卒, ムータ大修士, 軍建設局長(1990～93年), 王立工兵部隊長(1993～97年), 王立士官学校長(1997～98年), 幕僚補佐(1998～99年)		2,335
(2) アブドゥルハフィーズ・アフマド・アッラーウィー・ブレイザート 'Abd al-Ḥafīz Aḥmad 'Allawī al-Burayzāt	? / ?	ダマスカス大卒(1968年), ヨルダン大修士, ハイデラバード大(パキスタン)Ph.D.(1981年), ナールブスで教員(1959～61年), サウジアラビアで教員(1961～63年), マダバで教員(1967～71年), ナウルで教員(1971～78年), 教員養成所勤務(1978～81年), 第11期下院議員(1989～93年), 著書多数	イスラーム行動戦線	2,269

第14期ヨルダン国民議会下院選挙結果

ジェラシ

候補者氏名	出生年 / 出生地	略 歴	所属政党	得票数
ムフラフ・ハマド・ムネイゼル・ルヘイミー Mufлах Hamad al-Munayzil al-Ruhaymī	1954 / ジェラシ近郊	ヨルダン大卒, ILOセンター(イタリア)修士号, 1982年までヨルダン生活協同組合勤務, パニー・カナナおよびジェラシで協同組合運営(1983~87年), 第12・13期下院議員(1993~2001年), 国務相(1996~97年), 元アラアハド党员	国民立憲党 NAF	4,121
イブラーヒーム・アブドッラー・イブラーヒーム・アルアラウイー Ibrāhīm 'Abd Allāh Ibrāhīm 'Ar'arāwī	1950 / イルビド近郊	バグダード大卒, ヤルムーク大イスラーム学学位, 1984年までクウェートで薬局勤務, ジェラシで薬局経営(1984~2003年), ジェラシ市議(1995年), 元ムスリム同胞団員	イスラーム 行動戦線	3,890
ハーシム・アブドルカリーム・アリー・ズブーン Hāshīm 'Abd al-Karīm 'Alī al-Zubūn	1955 / ジェラシ近郊	大学医学部卒(ルーマニア), ヨルダン医療会議メンバー(1992年), 厚生省の病院・医療機関勤務(1982~92年), マフラク病院長(1998~2003年), ヨルダン医療協会メンバー		3,159
アリー・ウクラ・アティーエ・カワークザ 'Alī 'Uqla 'Atīya al-Qawāqiza	1945 / ジェラシ近郊	高卒, 実業家, ジェラシ市長(1991~94年), 元アラアハド党员		2,789

アジュルン第1・第2

候補者氏名	出生年 / 出生地	略 歴	所属政党	得票数
(1) ファラーハ・ムフレフ・ファラーハ・クッター Falāh Mufлах Falāh al-Quddāh	1942 / アジュルン近郊	ダマスカス大卒, 関税局最高法務官(1975~80年), アカバ免税特区長官(1980~82年), ザルカ免税特区長官(1983~87年), 免税特区機構副長官・同長官(1988~96年)		5,397
(1) アラブ・ムハンマド・ムスタファー・スマーディー 'Arab Muḥammad Muṣṭafā al-Ṣumādī	1963 / アジュルン近郊	アンマン・ポリテクニク卒, 民間企業勤務, 取締役, 宝石協会会員, アジュルン商工会議所会員, 赤新月社会員		3,883
(1)C ワディーア・ミシェル・サイド・ザウワイデ Wadī' Mishil Sa'id Zawāyida	1949 / アジュルン近郊	米国で経営学士取得, 企業経営, ヨルダン・フランス実業家クラブ会員		1,285
(2) アブドッラー・アブドッラフマーン・ムハンマド・フレイハート 'Abd Allāh 'Abd al-Raḥmān Muḥammad Furayḥāt	1955 / アジュルン近郊	ルーマニアで電子・通信工学学士取得, 教育省付教員(1981~82年), 工業校副校長(1982~84年), マフラク工業学校校長(1984~86年), 通信省支局勤務を経てアジュルン県通信局長(1991~96年), ヨルダン・エンジニア協会会員	DGB	2,861

アカバ

候補者氏名	出生年 / 出生地	略 歴	所属政党	得票数
バダル・サーレフ・ムハンマド・リヤーティ Badar Ṣāliḥ Muḥammad al-Riyāṭī	1947 / ベイル・サビエ (パレスチナ)	ダマスカス大卒, 財務省会計検査官(1972~76年), ヨルダン電力公社主計官(アカバ)(1976~92年), 第12期下院議員(1993~97年), 元ムスリム同胞団員	イスラーム 行動戦線	4,105
ムハンマド・フレイジー・アブドッサラーム・バドリー Muḥammad Furayzī 'Abd al-Salām al-Badrī	1960 / アカバ	タムシュアラ大医学部卒(ルーマニア), 厚生省付医師(1993~97年), 医院開業(1993~97年), 第13期下院議員(1997~2001年), ヨルダン医師協会会員		3,781

北部ベドウィン

候補者氏名	出生年 / 出生地	略歴	所属政党	得票数
ザーヒル・ファフド・ザール・アル=フワーズ Zāhir Fahad Dha'ar al-Fawwāz	1946 / マフラク近郊	軍事学修士号, 1966年以降, ヨルダン軍士官, 公共安全局長官, フセイン前国王・軍護衛官, 同護衛官長, 前国王部族問題副顧問, 王立ベドウィン部隊長		4,599
ハーリド・アリー・ムハンマド・ブリーク Khālid 'Alī Muḥammad al-Burīk	1963 / ?	高卒, 元ヨルダン軍将校		4,851
サアド・ハイル・オーデ・スルール Sa'd Hāyil 'Awda al-Surūr	1947 / マフラク近郊	リヤド大卒(サウジアラビア), アンマン市技師(1971~74年), サウジアラビアエンジニア(1974~81年), 国民諮問議会議員(1982~84年), 上院議員(1984~89年), 第12・13期下院議員(1989~2001年), 水灌漑相(1991年), 公共事業・建設相(1991~93年), ヨルダン・エンジニア協会会員		4,744

中部ベドウィン

候補者氏名	出生年 / 出生地	略歴	所属政党	得票数
アリー・サーレム・デイファッラー・シャラア 'Alī Sālim Ḍayf Allāh al-Shar'	1959 / ラムサ	大学医学部卒(ルーマニア), 1989年より国内各地の医療センター長を経てマフラク王立病院勤務(1997~2003年)		3,116
ナーエフ・ハイル・ファレフ・ファーズ Nāyif Hāyil Fāliḥ al-Fāyīz	1947 / アルバン	ダマスクス大医学Ph.D., 西独で脳神経外科Ph.D.(1985年), キングファハド病院等に勤務, ヨルダン大医学部評議員(2003年)		2,885
ガージー・ミンウェル・トルキー・ザベン Ghāzī Minwar Turkī al-Zabīn	1951 / ザルカ	大学医学部卒(ギリシア), 国内病院勤務を経て, 王立医療病院の整形外科責任者(1997~2003年)		2,850

南部ベドウィン

候補者氏名	出生年 / 出生地	略歴	所属政党	得票数
アブドラー・ハールーン・スレイマーン・ジャージー 'Abd Allāh Hārūn Sulaymān al-Jāzī	1954 / マアン近郊	大学医学部卒(エジプト), 企業重役を歴任, ヒジャーズ鉄道社長, 郵政局長, 郵政・通信相, 首相府担当国務相, 第13期下院議員(1997~2001年)	国民立憲党 NAF	3,479
ユスリー・ハマド・アラール・ジャージー Yusri Ḥamad 'Arār al-Jāzī	1948 / ラシディーヤ	カイロ大卒, 内務省地方局長(1970~71年), 部族長会議法律顧問(1971~73年), ヨルダン・セメント会社重役, 法律事務所経営(1973~2003年)		3,239
サナド・ハマド・アリー・ネイマート Sanad Ḥamad 'Alī Na'imāt	1955 / ハサ	高卒, 税関勤務, マアン関税局長, 密輸防止局副長官		2,843

女性議席

候補者氏名	出生年 / 出生地	略 歴	所属政党	得票数
ハヤート・フセイン・アリー・ミシミー Hayāt Ḥusayn 'Alī Misīmī	1962 / ナープルス (パレスチナ)	ヨルダン大卒, イスラムコミュニティ単科大 (ザルカ) 学部長補佐 (2000 ~ 2003年), 同講師 (1989 ~ 97年), ヨルダン薬剤師協会女性部会長, ザルカ第1選挙区	イスラーム行動戦線 (シユーラ議会メンバー)	7,133
ファラク・スレイマン・ムバーラク・ジャマアニー Falak Sulaymān Mubārak al-Jama'ānī	1945 / マダバ	ダマスカス大歯学部卒, ロンドンで矯正学学位, ロンドン大修士号取得, 歯科医師, 軍病院歯科 (1990 ~ 95年), キングフセイン医療センター歯科部長 (1995 ~ 98年), 王立医療サービス長官 (1998 ~ 2000年), ヨルダン歯科協会会員, マダバ第2選挙区		1,045
ナーリーマン・ズハイル・アフマド・ルーサーン Nārīmān Zuhayr Aḥmad al-Rūsān	1951 / ラムサ	アレクサンドリア大卒, 弁護士 (1984 ~ 2003年), 青年高等評議会法律問題局長 (1994 ~ 2003年), イルビド青年女性センター指導主事 (1984 ~ 87年), イルビド第5選挙区		1,684
インサーフ・アフマド・サラーム・ハワールデ Inṣāf Aḥmad Salāma al-Khawālīda	1958 / タフィーラ近郊	教員短大卒 (1980年), 23年間校長, ヨルダン女性国民会議会員, ヨルダン女性連合会員, タフィーラ第2選挙区	NAF	365
ザキーエ・ムハンマド・スレイマン・シャママイル Zakiya Muḥammad Sulaymān al-Shamāyīla	1941 / カラク	ラマラ教員養成学校終了, 教育省付教員, カラク女子高校長, ムータ大地方社会開発学科内部調整部長 (1996 ~ 2003年), ヨルダン女性国民会議会員, カラク第1選挙区		1,336
アドブ・ムバーラク・サーレフ・サウード Adb Mubārak Ṣāliḥ al-Sa'ūd	1969 / タフィーラ近郊	ヨルダン大卒, 同修士, 人間開発ヨルダン・ハーシム基金責任者 (1991 ~ 95年), 教育省職員 (1995 ~ 2003年), ヨルダン女性国民会議会員, タフィーラ第1選挙区		

(注) アミ掛けの2名は政治的理由で議員資格剥奪。

(出所) いずれもヨルダン内務省資料, *al-Dustūr*紙, *Jordan Times*紙, H.Hourani (1998, 2004), およびヨルダン政治発展・議会問題省ホームページ (<http://www.mopd.gov.jo/>) による。

候補者氏名前のカッコ付数字は各選挙区の番号, (C)はキリスト教徒議席, (Ch)はシャルカシー/シーシャーン議席, 出生地のカッコ内は国または地域名, カッコのないものはいずれもヨルダン国内を示す。所属政党の欄のNAFは国民行動戦線(保守), DGBは民主連合ブロック(左派・リベラル)を示す。

(注1) 議会が国王の決定に主に大きな圧力を加えていたのは, 1960年代のフセイン国王統治初期であり, 常に議会が大きな権限を持っていたとすることはできない。フセイン国王統治の末期90年代における議会再開後は, また議会が影響力(特に対米関係などをめぐり)を行使することもあった。第13期までのヨルダンの下院議員選挙について詳しくは, 北澤(2003)参照。

(注2) 2001年暫定選挙法第34号に基づく。ヨルダンの上院(Majlis al-A'yān)の定員は55名で, 閣僚経験者をはじめとする各界の有力者から国王が指名する。

(注3) ヨルダン人の人名は, 現地での読み方を尊重して, 氏名の表記はカタカナが現地読み(アーンミーヤ)で表したが, アラビア語表記上のスペリングを確認するために, アルファベット表記部分は標準アラビア語(フスハー)で表してある。

(注4) アブドゥラー2世自身, 故フセイン国王の民主

化路線を継承することを明言し, また対米関係を重視する方針からして「民主化路線」を阻害しているというイメージは避けたいところであろう。しかし, イスラーム政治勢力への警戒と治安優先の姿勢は, 内外のテロ事件もあって国民から支持される部分もあるものの, 2001年6月の議会解散以後の選挙の長期的延期などの措置に関しては, 民主化プロセスの観点からは, 批判も強くなっている。

(注5) 主にイスラーム系・左派・アラブ民族主義系の政党は, 連記制から単記制への選挙法「改悪」(1993年)が, 保守派有利の選挙結果につながると批判し, 単記制の復活を主張している。

(注6) 国民立憲党所属議員は11議席という情報もあるが[Hani Hourani et al. 2004], 一部を除き未確認。議会ブロックの国民行動戦線のメンバーに党員が含まれる可能性が高い。なお国民立憲党は保守派ながら, 政府の出した政党資格を大幅に制限するとみられる2007年の政党法改正に「イスラーム行動戦線」を含むほかの野党とともに反対を表明し, 民主主義制度の

制限に対しては批判的対応を示している。

【文献リスト】

(一次資料)

al-Dustūr al-Urdunnī ヨルダン憲法)
Qānūn al-Intikhāb li-Majlis al-Nuwwāb Qānūn Muwaqqat Raqm(34) li-Sana 2001 wa Ta'dīlāt-hu(2001年暫定選挙法)

(二次資料)

日本語文献

北澤義之 2003. 「ヨルダンの選挙制度と政党」『中東諸国の選挙制度と政党』(財)日本国際問題研究所.

アラビア語文献

Aḥmad 'Ubaydāt et al. 1997. *al-Mīthāq al-Waṭanī wa al-Taḥawwul al-Dīmuqrāṭīya fi al-Urdunn*. Amman.
 Markaz al-Urdunn al-Jadīda lil-Dirāsāt 1994. *al-Masār al-Dīmuqrāṭīya al-Urdunnīya... Ilā Ayna !?*. Amman.
 Hānī Ḥawrānī 1997. *al-Aḥzāb al-Siyāsīya al-Urdunnīya*. Amman.

英語文献

Hani Hourani and Ayman Yassin 1998. *Who's Who in the Jordanian Parliament 1997-2001*. Al-Urdun Al-Jadid Research Center. Amman : Sindbad Publishing House.
 Hani Hourani, Hussein Abu Rumman and Nasser Ahmad Kamel 2004. *Who's Who in the Jordanian Parliament 2003-2007*. Al-Urdun Al-Jadid Research Center. Amman : Sindbad Publishing House.

(新聞・雑誌)

アラビア語

al-Ahrām
al-Dustūr
al-Ghad

英語

BBC Worldwide Monitoring
Jordan Times
Middle East International
Middle East Monitor
The Star
The Times

(きたざわ よしゆき / 京都産業大学外国語学部)